

DXお悩み相談室

第3回

「ノーコードツールはIT人材不足を救う?」のお悩み

ノーコードツールはメリット大。
ただし、注意ポイントも!



Cさん（経営者）：最近、専門知識がなくてもアプリやウェブサイトをつくれるという「ノーコードツール」の宣伝をよく見かけます。わが社ではホームページを刷新したいと思っているのですが、ITに詳しい社員がいません。外部のシステム会社に頼もうと思つていたのですが、ノーコードツールを利用すれば自社内でなんとかできるものでしょうか。

柴山：ノーコードツールはアメリカ発祥といつても過言ではないですが、そのルーツはウェブサイト作成だと言われているんですよ。

Cさん：へえ、そうなんですか。じゃあ、ホームページ作成にはノーコードツールは向いてるといふことですか。

柴山：はい、向いています。ノーコードツール利用の利点は、開発の初期コストを下げられることと開発期間を大幅短縮できることが大きいですが、それに加えて、改修の自由度が上がりります。企業のホームページの場合、ボタンや画像表示などの配置を変更したいと思うことが結構ありますよね。ホームページ作成を外部の会社に任せると、「このボタンの位置を移動したい」というようなちょっとした改修でも、すぐには対応してもらえない可能性があります。しかし、ノーコード

然としかわかつていなくて。

柴山：一言で表現すると、サーバーやネットワークリケーション開発の知識がなくても、マウス操作だけでウェブサイトがつくれるツールです。家づくりに例えれば、従来のシステム開発は、設計士と相談して一から設計図を描いて素材や構造を選んで建設するオーダーメイドの家づくり。一方ノーコードツールを活用したシステム開発は、あらかじめ用意されたパーツを組み合わせてつくるツーバイフォーの家づくり。カスタマイズには限界がありますが、開発コストが安く工期も短くされます。Cさんも、子どもの頃にブロックを組み合わせておもちゃの家をついた経験がありませんか？ あれに近いイメージです。

Cさん：ああ、やりました！ だから、専門知識がなくてもつくれるわけですね。ホームページ以外にはどんな分野で活用できますか。

柴山：おすすめは、業務効率化分野での活用です。例えば、営業部門が顧客管理システムを自分たちが使いやすい形でつくるようなケースです。外出先でスマートフォンやタブレットから商談結果を入力し、フォローアップメールが自動送信できるといったシステム構築は、ノーコードツールで可能です。また、在庫管理システムなども向いていると思います。

Cさん：そういうものが簡単に安くつくれるな

ら、すごく使えそうな気がします。ただ、そうは言つてもデジタルの知識がない人間が使うと、問題が起きそうな気もします。

柴山：それはおっしゃるところです。まずは、デジタル化の肝である「データ」について、データベースの基本的な構造や正規化などの基本概念は理解しておいてほしいところです。そのうえで、ノーコードツールの利用で気を付けてほしいポイントは、大きく3つあります。まずは、ガバナンス。比較的簡単に誰でもつくれてしまふので、きちんと全社的な管理をしないと、同じようなシステムを各部署でバラバラにつくってしまい、データの整合性が取れなくなつて逆に非効率になる恐れがあります。

Cさん：顧客管理システムを営業部とマーケティング部でそれぞれつくりてしまい、二重管理になつてどちらのデータが最新なのかわからなくなるようなケースですね。



ノーコードツールでのシステム開発は、パーツを組み合わせていくイメージ

合には業務がストップする、というようなことが起こります。

Cさん：とてもありそうで怖いです……。

柴山：計画なしにツール開発を行うと先に挙げたようなリスクが顕在化する可能性もありますが、過剰に恐れたり考えすぎたりして計画倒れに終わるのはもったいないと思います。うまく使えば業務効率化を低コストで行えますので、基本の教育と管理のポイントを押さえたうえで、まずは実際に手を動かして小さなところから始めてみることをおすすめしたいと思います。

ツールを利用して自社で作成すれば、改修も自分たちでいつでも自由にできます。

Cさん：なるほど！ 今は営業部の意見をECサイトに反映したいと思っても、時間もお金もかかるので簡単にはできません。自分たちでスピードに対応できるのはメリットを感じます。

柴山：アメリカの企業は、社内にITの専門家を抱えている割合が日本と比べてかなり高いです。いちいち専門部署やシステムベンダーに頼まなくとも、担当者レベルで改修できるのでスピードで効率がいいよねというのが、ノーコードツールのつまりです。その後、他の業務効率化ツールの作成などにも活用範囲が広がつていつたよう



柴山治
(しばやま・おさむ)
デジタル戦略プランナー/
株式会社YOHACK CEO



米国ワシントン大学 経営学修士課程(Global Executive MBA)修了。ITベンチャー、コンサルティングファーム、外資系生命保険会社等を経て、現在は株式会社YOHACK代表。企業の成長フェーズや課題に応じた、テラーメイドの支援を提供している。著書に『日本型デジタル戦略』等がある。

※DXに関するお悩みは、どんなことでもお気軽にご相談ください。